

【件 名】	中川護岸耐震補強詳細設計（その34）	【事務所名】	江東治水事務所
【施行場所】	東京都葛飾区奥戸一丁目地内	【受託者名】	株式会社ピーシーレールウェイコンサルタント東京支店
【工 期】	令和6年6月17日から令和7年2月3日まで	【主たる技術者名】	主任技術者 もり まもる 森 守

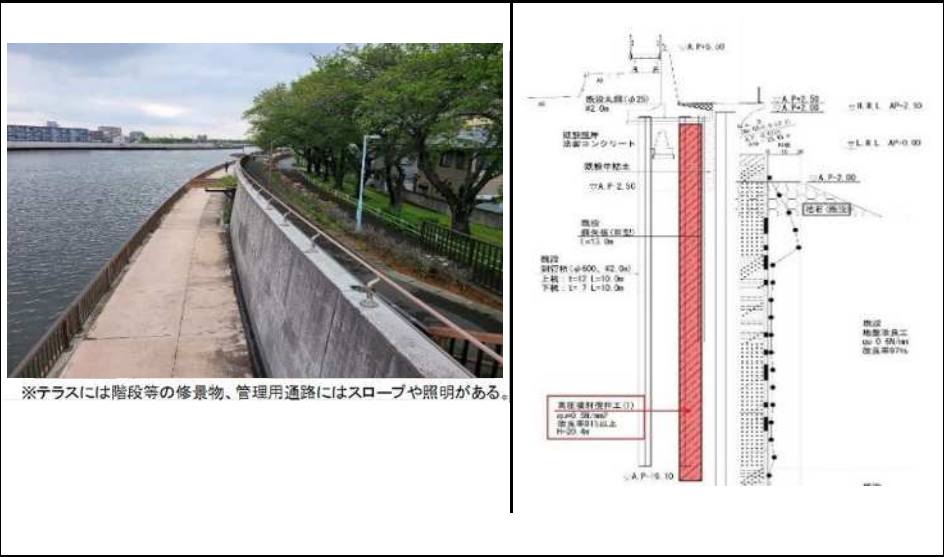
【委託概要】

本委託は「東部低地帯の河川施設整備計画（第二期）」に基づき、中川（平和橋上下流）左岸において護岸の耐震補強詳細設計を実施したものである。現場は「道路が狭隘で重機が入りづらいこと」、「桜並木があること」、「タンカー船等の航行があること」等の条件があり、これらを考慮した耐震対策工の選定、施工計画の検討、関係機関協議資料の作成等を迅速に行った。

【表彰理由】（※発注者側評価）

受託者は、初回打合せにおいて、土質定数の整理・液状化判定・照査断面の設定・対策工の検討結果を発注者に示したことで、委託内容の方向性を早期に決めることができ、業務の効率化が図られるなど、工程管理能力が優れていた。また、陸上施工に伴う桜の剪定の影響範囲（バックホウ可動域の可視化等）に関する詳細な協議資料を作成することで、地元住民の関心が高い桜存置について管理者との詳細な協議が可能となるなど、管理技術力が優れていた。

打合せでは、毎回、一週間前に必ず資料が提出され、発注者が事前に確認できる時間を確保するとともに、発注者が十分理解できるよう質問を想定した補足説明資料を事前に準備し提示するなど、説明が的確であり、双方の理解促進に寄与した。さらに、週報提出のほかに電話による状況報告、新たな課題が発生した場合の迅速な資料作成がなされるなど、コミュニケーション力が卓越していた。



【備考】

この業務で特に苦労した点

設計区間の上下流で地質構成が異なることに加え、周辺の区道が狭隘かつ住宅地である現場条件の中、計算した2断面の照査結果に合致する対策工を検討する必要があったこと。

この業務で特に工夫・努力した点

RC護岸の対策工選定で、経済性だけでなく現地制約による施工性についても検討し、葛飾区や第五建設事務所等の関係機関協議の結果も反映して対策工法を選定したこと。

打合せで発注者からの質問への確に回答できるように、想定される質問を考えて、補足説明資料を事前に準備した。また、発注者とコミュニケーションを密にとり、迅速な課題解決が図れるよう意識した。

